**三瀧寺：概観**

広島市を見下ろす山の中にある三瀧寺は、広島の隠れた名所の1つです。秋の地面が紅葉に覆われる時期や、春の桜の花の季節には特に人気でたくさんの人が訪れます。この人里離れた寺には何百もの石仏があり、中には鎌倉時代 (1185年–1333年) のものもあります。

様式も様々な10の木造建築が配置される中、石像があちこちに置かれています。たくさんある舟のような形の仏像を探してみましょう。88体が四国の寺院に献呈されています。寺の入り口からそれらを辿ると、小さな聖地巡礼ができるようになっています。

三瀧寺の本堂には、憐れみの菩薩であり、苦しみから救ってくれると信じられている観音が祀られています。木造のお堂は、寺の他の部分と同様、原爆でひどく損傷しました。お堂の屋根は落ちたものの、建物は幸い火災には見舞われなかったため、中にあった仏像や御神体は失われずに残りました。本堂は、1968年に完全に再建されました。

寺は正式には9世紀に創建されましたが、その歴史は古くは奈良時代 (710年–794年) まで遡ります。寺の建物のほとんどはそれよりかなり新しく、19世紀から20世紀のものですが、敷地内の曲がりくねった小径を登った先に、岩の表面に彫り込んだ往古の石の祭壇があります。この初期の聖地は、山の聖霊から三瀧寺を建てる許可を貰うために造られました。

寺は、毎日午前8時から午後５時半まで (冬季は午後５時まで) 開門しています。